

ランドスケープのちから

10. 水景 / ウォータースケープ

株式会社ランドスケープデザイン

植野紉 / 大貫真樹

三つのらしさ

計画しては工事費が合わずあっさりカット、管理費が掛かるからやはりカット、夢を抱いて提案しては消え、また提案して消えの連続でした。この仕事に携わり20年以上たちましたが、自分が設計した水景施設が実現したのは4年前が初めてです。それがこれまたあっさり一気に数件、計画が実現されたのです。不思議なものです。それはそうです、水景施設を導入するには環境へ負荷も与えます。ですから水景を計画し実現するためには、その意義を熟慮し、丁寧に説き、コストバランスも鑑みながら設計プロセスを歩むことが大切になります。この時、ポイントとなるのが「ランドスケープらしさ」という視点ではないでしょうか。建築的でもなく、インテリア的でもなく、です。下記に挙げる三つのらしさはランドスケープそのものの特性ではありますが、空間を構成する一要素である水景においても同様に適用すべき特性と考えています。なぜならば、デザインそのものは自然界のあらゆる場面で出現するフラクタルな性質のように、部分が全体、全体が部分でありたいと思うからです。

●スケールを越える水景

ランドスケープの特徴の一つは、建築内外の境界、敷地の境界、その境界の向こうまで空間スケールを横断的に越えられることです。「岡山理科大学今治キャンパス」(以下「今治」)の特徴は丘陵地の高台から瀬戸内海の美しい風景を望めることでした。ここでの水景の役割は、キャンパスの中心広場から軸線状の水盤により視線や人々を誘導し、行き着く先に広い水面を設け、敷地を越えたしまなみ海道の海と連続する水景を創出することでした。また、同じく三河湾の海への眺望が最大の特徴である「ラグーナベイコート倶楽部」(以下「ラグーナ」)では、海に面したエントランス、和の庭園、プールにおいて、大きなインフィニティの水盤を介して近くの風景が遠くまで連続してつながるダイナミックスケールの風景を展開しています。

●時間をつなぐ水景

植物、土、石等の自然物を扱うランドスケープ空間は、時間の経過と共に味わいを増すことが魅力で、水景にはその効果を引き出す大きな力があると思います。「ラグーナ」の車寄せ空間は、日中は円形に切り取られた青空と水面や壁泉に輝く太陽光が、

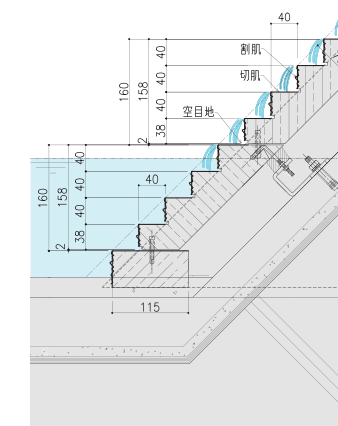
自然の風景を中国語では「山水」というそうです。古来より景観において「水」がいかに重要であったかが分かります。確かに中国庭園に「池」はなくてはならない要素ですが、それは日本でも同様で、平安時代の池泉舟遊式庭園、江戸時代の大名庭園のように、まさに景観づくりの中心でした。仮に本物の水でなくても「枯山水」では、石や砂で滝や流れを見事に表現します。現代ランドスケープにおいても「水景」は花形で、浄化設備など費用はかかるものの、その効果は絶大で、効用は多岐にわたります。中でも分かり易いのは、噴水や滝のようなフォーカル

ポイントとしての役割です。都度変化する水の形やそこで発する水音も大きな魅力です。池やプールでは水自体は静かですが、映り込む景色や風を感じさせるさざ波などがランドスケープに深みを与えます。子供たちが水と遊び触れあう「水景」の工夫は、さらに場を生き生きとさせるでしょう。そもそも水の魅力も扱いの難しさも、その根源は重力に素直に従う従順性にあり、水景デザインに当たり、それを繊細に読み解いたディテールの造り込みは大変重要です。そして実際に水が意図通りに流れ、留まるのか、モックアップ検証も必要不可欠と言えるでしょう。(植野紉)

宵は濃い青の夜空と水面に映りゆるぐ柔らかな照明の光が一日の変化を感じさせます。「今治」の軸線状の水盤は、並木の樹木が新緑、花、紅葉へと変化する四季の風景の地となり、横広の静水盤は、水面より下に掘り込んだテラスに座ると中景の森の風景が水面いっぱいに映り込み、時の移ろいを感じさせます。

●建築や自然と調和する水景

建築や自然と密接に関係するランドスケープ空間において、お互いが思いやり調和する必要があります。「ラグーナ」の和の庭園は、波をイメージしたウェーブ状の石とマウンドで構成した枯山水の庭と曲面を描く建築ファサードが、水盤を通じて一体的な風景を作り出し、車寄せの壁泉はモックアップにより落水の表情を検証し、建築的なディテールを構築しています。「今治」では、水平垂直で構成される建築や2階デッキと建物で囲われた中心性をもつテラス広場が、まっすぐな水盤と一本立ちの並木により融合し、全体が調和した空間を生み出しています。私たちの扱い方次第で善とも悪とも、美しくも醜くもなる変幻自在で魅惑的な「水」、さて次はどんなワクワクするような水景を創造しようか。(大貫真樹)



「ラグーナ」 車寄せの壁泉ディテールとモックアップ



テラス広場から軸線状の水盤と並木を介ししまなみ海道の海を望む



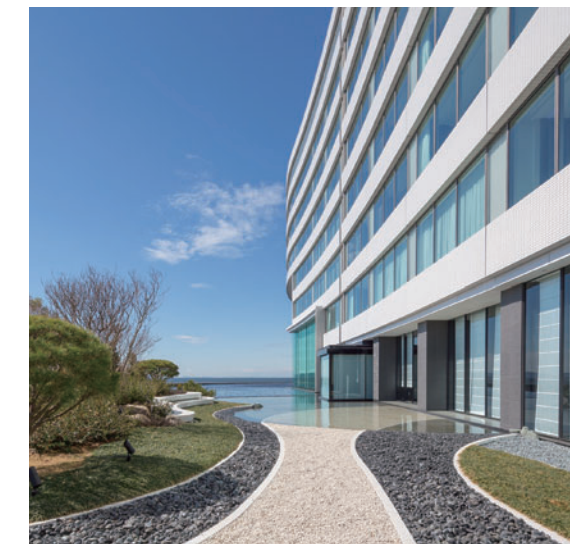
岡山理科大学 今治キャンパス

所在地：愛媛県今治市 / 敷地面積：約 25,200 m²
建築設計：(株)SID 創研・(株)大建設計 / 写真：(株)エスエス大阪支店

丘陵地の高台に新設される大学のランドスケープ計画。瀬戸内海の風景や周囲の森を望めるどこにいても海や山を感じるシーンづくりがコンセプト。各棟を二階レベルのデッキで繋ぎ地上から二階への縦方向の動線と雁行する水平方向の動線や、様々な滞留場所を設け多様な景観変化を創出した。



車寄せの壁泉



ラグーナベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート

所在地：愛知県蒲郡市 / 敷地面積：52,264.5 m²
建築設計：(株)安井建築設計事務所 / 写真：左 黒住直臣・右 (株)エスエス

リゾートトラスト株式会社が運営する完全会員制リゾートホテルのランドスケープ。“Futuristic Luxury”をコンセプトに建築、インテリア、ランドスケープが融合した新しい空間を創出。海への眺望を最大限に生かした建物配置や平面形状、圧倒的な森で囲われたアプローチ「海の森」などが特徴。